

BUSINESS REVIEW 2013

第2四半期累計ビジネスレビュー
2012年9月1日 ~ 2013年2月28日

株式会社 ファーストリテイリング



GROUP HIGHLIGHTS 2013

2013年8月期 上期連結業績

売上高6,148億円(前期比17.0%増)、
営業利益966億円(同5.3%増)の増収増益

配当金

中間配当金は1株当たり140円を実施、
年間では280円を予定

国内ユニクロ

上期の売上高は6.2%増の増収、
営業利益は粗利益率の低下により減益。
ただし、通期は増益予想

海外ユニクロ

中国・香港、台湾、韓国、その他のアジアで、
大幅な増収増益。
店舗数は上期で70店舗(3店舗閉店)出店し、
359店舗まで拡大

ジーユー

大幅な増収増益がつづく

J Brand事業

2012年12月より

ファーストリテイリンググループの仲間入り

CSR活動

子どもたちの夢を支援する

Clothes for Smilesプロジェクトを
ノバク・ジョコビッチ選手と共同で、
順次実施に向けて活動を開始

キュッキュー
¥990で、おしゃれを元気に



国内ファミリー向けのイメージ
が強かったジーユーのロゴを、
ユニクロのロゴとの親和性や
グローバル化を狙って一新
しました。ジーユーの海外進出
は、もう間近です。「ファッション
で、世界を元気に」をスローガ
ンに、ジーユーは日本らしいシ
ンプルでかわいいシルエットが
素敵な「日本発のファストファッ
ション」をめざします。

2013年春夏シーズンか
ら、うれしい価格の990円
(キュッキュー)ラインの商
品を大幅に増やしました。
「おしゃれインベーター」に扮した
きゃりーぱみゅぱみゅさんが
歌う「インベーターインベーター」
とともに、ジーユーは自由で新
しいファッションを次々に発信
します。

世界的に注目を集める
きゃりーぱみゅぱみゅさんを
2013年の春夏も
イメージキャラクターに起用



服を変え、常識を変え、世界を変えていく



2013年度上期の業績は増収増益を達成しました。通期では初の売上高1兆円超え、3期ぶりの過去最高の営業利益を予想しています。好業績を支えているのは、海外ユニクロ事業とジーユー事業の拡大です。この春からは、日本の消費環境にも明るさが見られるようになり、国内のユニクロ事業にとってもチャンスだと捉えています。

海外ユニクロ事業では、中国・台湾・韓国を中心としたアジアで、ユニクロのブランド認知度が飛躍的に高まっています。ブランド調査会社の評価で、ユニクロは「アジアのリテールブランドNo.1」に選出されました。また、米国やヨーロッパでも、ユニクロのヒートテック、ウルトラライトダウン、ウルトラストレッチジーンズなどが高い支持を得ています。

現在、我々は「ユニクロを真のグローバルブランドにする」ことをめざしています。そのために果たすべき課題は、アジアで圧倒的なNo.1になること、世界の主要都市へのグローバル旗艦店・繁盛店を出店すること、欧米市場でのチェーン店化を推進すること、グローバルマーケティングを本格展開することです。

アジアで圧倒的なNo.1になるためには、中産階級が急激に増えると予測されている中国からインドにかけてのエリアへの出店を、ますます加速させる必要があります。昨年の夏にはフィリピンへ進出し、今年の夏にはインドネシアのジャカルタに出店する予定で、2014年にはオーストラリアのメルボルンに進出します。また、米国市場での拡大戦略については、ショッピングモールを中心に、ニューヨーク近郊とサンフランシスコ近郊に、

それぞれ20～30店舗のドミナントをつくる計画です。ヨーロッパでは、ロンドン、パリ、モスクワ周辺でチェーン展開を開始するほか、ベルリン、ミラノ、バルセロナといったヨーロッパの主要都市への進出をめざしています。

ユニクロがグローバルブランドになるためには、グローバルマーケティングも重要です。ユニクロの主力商品である高性能肌着「エアリズム」のテレビCMには、世界ランクNo.1のプロテニスプレーヤーであるノバク・ジョコビッチ選手を起用し、世界中にエアリズムの良さを伝えます。我々の「グローバル ブランド アンバサダー」であるジョコビッチ選手は、子供たちの夢を支援する社会貢献活動「Clothes for Smilesプロジェクト」を、我々と共同で行っています。また、第77回マスターズ・トーナメントで優勝したアダム・スコット選手も、我々の「グローバル ブランド アンバサダー」です。ユニクロのポロシャツのテレビCMに登場し、ユニクロの商品とブランドを世界中に伝えていきます。

社会貢献活動は事業と同じぐらい、いや、それ以上に重要だと考えています。我々は「企業精神そのものを買ってもらい、企業として永続的に支持される」ことをめざすグローバル企業になりたいと思っているからです。これからも変わらず、「服を変え、常識を変え、世界を変える」ための挑戦を続けていきます。

米国西海岸初の

San Francisco Union Square店



米国の東海岸と西海岸から ドミナントで攻めていきます

2006年に米国初のグローバル旗艦店をオープンしたのは、ニューヨークのソーホーでした。この大成功を皮切りに、2011年秋にはニューヨーク5番街のグローバル旗艦店、34丁目にはメガストアを出店し、米国におけるユニクロの知名度は飛躍的に高くなりました。

2012年秋にはニュージャージー近郊のショッピングモールとサンフランシスコ市内へ出店し、ユニクロは米国市場での次のステップへと踏み出しました。米国ではショッピングモールの集客力がとても大きいので、東海岸はニューヨーク近郊で、西海岸ではサンフランシスコ近郊で、それぞれショッピングモールを中心に20~30店舗のドミナントを築いていく計画です。

ユニクロの出店開発チームは、すでに米国の大手デベロッパーと出店計画を進めており、2013年春にはニューヨーク州郊外のショッピングモールに新たに2店舗をオープンする予定です。採算性をしっかりと見極めながら、大胆かつ慎重に出店を加速していけるよう計画を立てています。

2012年秋のニュージャージーへの出店では、初の米国人の店長が誕生しました。米国も含め、海外出店での成長の鍵となるのは人材育成です。文化の違いを越えて、ユニクロというブランドを米国で広く深く伝えていくことのできる店長たちが着実に育ってきていることも、米国市場での成長が確かなものになりつつある証です。





アジアで圧倒的なブランドになる それが、世界No.1への道筋

現在のユニクロ事業の業績拡大をけん引しているのは、海外ユニクロ事業です。なかでも大量出店を続けているグレーターチャイナ(中国・香港・台湾)と韓国が、成長に大きく貢献しています。世界の人口の3分の2が住んでいて、今後10年間で中産階級の人口が爆発的に増加すると予想されるアジア地域は、成長に期待がもてます。

ユニクロは、シンガポール、マレーシア、タイに続き、2012年6月にフィリピンのマニラへ出店しました。マニラでは熱狂的にユニクロが支持され大成功を収めています。リピーターになってくださるお客様が多いのがユニクロの特長で、SPA(アパレル製造小売企業)の強みを生かしたクオリティの高さと日本文化のきめ細かいサービスが、アジア各国で高い支持を得ている理由です。まず、アジア地区で圧倒的なナンバーワンになることが、世界ナンバーワンになるための道筋だと考えています。

今年の夏には、インドネシアに1号店を出店する予定です。出店前にもかかわらず、インドネシア人の2人に1人がユニクロを知っているという期待値の高さに驚いています。また、2014年にはオーストラリアのメルボルンへの進出も始める予定です。

ユニクロというブランドが世界から信頼され、出店を望まれるように、これからも商品、サービス、接客などのすべてに研ぎをかけ、世界各国に展開するすべての店舗でユニクロの良さをお客様に実感していただきたいと思っています。

ファーストリテイリング
グループ 上席執行役員
大竹 直樹



お客様の声、ユニクロのパワー 世界中の人に、もっと満足をお届けしたい



ユニクロでの買物が快適なのは、日本と同じように丁寧に真心こもったサービスをしているからだと思います

33才 / 男性 / 英国 

ユニクロは ニューヨークで 一番かっこいい お店ね!

27才 / 女性 / 米国 

タイは一年中暑いから、日本の季節に合わせた商品を置く必要はないと思います

45才 / 男性 / タイ 

寒波のときも、 ヒートテックの おかげで暖かく 過ごせました

23才 / 女性 / 米国 

ブラトップを毎日、楽しんでます
カラーバリエーションが多くて幸せ

30才 / 女性 / 香港 

補正サービスが無料だし、たった20分で仕上げ完了！素晴らしいわ!

37才 / 女性 / 英国 



商品返品の際の、レジのスタッフの対応が気持ち良かったから、別の商品を購入しました

22才 / 女性 / マレーシア 

親切で スタッフみんな 元気がいい 買い物のたびに 気分がいい

27才 / 男性 / 中国 

サイズを“cm”と“inch”で表示してほしい。そうすれば、もっと買いやすくなると思う

32才 / 男性 / シンガポール 



清潔な感じのお店と、商品がきちんと整頓されてることに感動しました

28才 / 女性 / 韓国 

小さいサイズしか残ってないのが不満、大きいサイズ、特にロシアの50サイズを置いてほしい

48才 / 女性 / ロシア 

パリに2店舗しかないのが残念 インターネットで 買えるようになるのは、 いつかしら?

48才 / 女性 / フランス 

プレミアム・デニムのJ Brandが、 ファーストリテイリンググループに加わりました

J BRAND

ファーストリテイリングは、2012年12月にJ Brandを子会社化しました。J Brandをグローバルブランドとして育成するため、今後は米国だけでなく欧州、アジア市場に本格的に進出します。



J Brandは米国ロサンゼルスに本社を置く、プレミアム・デニムのリーディングカンパニーです。2004年にJeff Rudes(ジェフ・ルーズ)氏により設立されました。

Jeff Rudes氏の30年というデニム業界の知識をベースに開発されたのがJ Brandです。その洗練されたデザイン、美しいシルエット、フィット感の良いデニムには定評があります。米国の女優、トップモデル、スタイリストなどからも、高く支持されています。将来的にはこの卓越したデニムのノウハウを、ユニクロをはじめとするグループブランドのデニム商品開発に生かすというシナジー効果が期待できます。

「ファーストリテイリングは最強のパートナーであり、我々は世界中の市場に事業拡大するチャンスを得ました。J Brandの着心地の良い素材、オリジナリティー溢れるプレミアム・デニムの魅力を世界中の人たちに知っていただきたい。」

J Brand Holdings, LLC
CEO and President
Jeff Rudes



上期の連結業績は、売上高6,148億円(前年同期比17.0%増)、営業利益は966億円(同5.3%増)、純利益は654億円(同13.2%増)と増収増益を達成いたしました。増益の要因は海外ユニクロ事業とジーユー事業の業績拡大が寄与したことによります。

連結売上高の63%を占める国内ユニクロの売上高は3,872億円(同6.2%増)、営業利益は689億円(同4.5%減)と増収減益の結果でした。増収となった要因は、既存店売上高が3.6%増となったことによります。前年度まで客数が減少しており、これを経営課題としておりましたが、この上期は、販促活動を強化し、客数をプラスに転換させることができました。営業利益が減益となった要因は、集客を目的とした「期間限定値引販売」を増やした影響で値引率が拡大し、売上高総利益率が46.7%と同1.5ポイント低下したためです。

上期の海外ユニクロ事業の売上高1,306億円(同54.0%増)、営業利益は160億円(同39.8%増)と大幅な増収増益となりました。特に、中国・香港、台湾、韓国、その他のアジアで、大幅な増収増益となっています。上期の海外ユニクロ事業では70店舗の出店、3店舗の閉店により、2月末店舗数は359店舗に達しました。

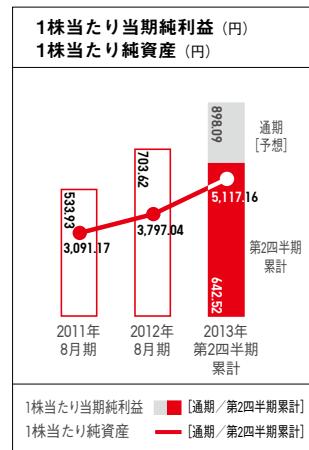
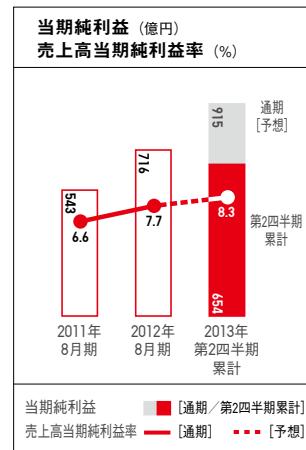
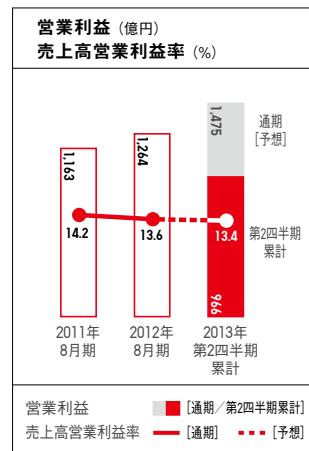
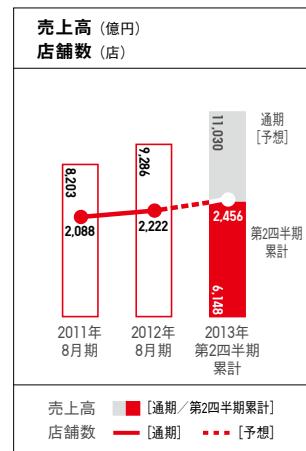
グローバルブランド事業の上期の売上高は957億円(同27.8%増)、営業利益は85億円(同8.5%増)と、計画通りの増収増益を達成しました。ジーユー事業は、既存店売上高の高い伸びが続き、大幅な増収増益を達成しております。

なお、1株当たり中間配当金を140円とし、年間配当金280円を予定しております。

3年間の連結業績推移

	2011年 連結会計年度末	2012年 連結会計年度末	2013年 第2四半期累計期間末
売上高(百万円)	820,349	928,669	614,841
営業利益(百万円)	116,365	126,450	96,658
売上高営業利益率(%)	14.2	13.6	15.7
当期純利益(百万円)	54,354	71,654	65,449
総資産(百万円)	533,777	595,102	806,479
純資産(百万円)	319,911	394,892	540,439
自己資本比率(%)	59.0	65.0	64.6
自己資本当期純利益率(ROE、%)	18.1	20.4	14.4
フリーキャッシュ・フロー(百万円) ^{※1}	30,515	92,330	70,348
現金及び現金同等物期末残高(百万円)	202,104	266,020	342,151
1株当たり当期純利益(円)	533.93	703.62	※2 898.09
1株当たり期末純資産(円)	3,091.17	3,797.04	5,117.16
1株当たり年間配当金(円)	180.00	260.00	※3 280.00
(1株当たり中間配当金)	(95.00)	(130.00)	(140.00)
連結配当性向(%)	33.7	37.0	※2 31.2
発行済株式数(株) ^{※4}	101,816,013	101,854,222	101,882,490
時価総額(億円、期末日終値ベース)	14,742	18,608	25,908
期末総店舗数(店)	2,088	2,222	2,327

※1 営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー
 ※2 通期の予想を掲載しております。
 ※3 期末配当金は140円を予定しておりますので、通期では280円となる予定です。
 ※4 期末発行済株式数は期末自己株式数を控除しております。



連結財務諸表

四半期連結貸借対照表			
単位：百万円			
	前第2四半期 累計期間末 2012年2月29日現在	当第2四半期 累計期間末 2013年2月28日現在	前連結会計 年度末 2012年8月31日現在
資産の部			
流動資産：			
現金及び預金	109,317	143,724	132,238
受取手形及び売掛金	21,594	30,142	19,920
有価証券	189,127	198,463	133,788
たな卸資産	87,788	109,629	98,963
その他	25,852	95,470	39,603
流動資産合計	433,680	577,433	424,516
固定資産：			
有形固定資産	67,078	82,607	69,222
無形固定資産	40,968	79,693	38,216
投資その他の資産	66,294	66,745	63,146
固定資産合計	174,341	229,046	170,586
資産合計	608,021	806,479	595,102
負債の部			
流動負債：			
支払手形及び買掛金	82,057	95,418	71,142
未払法人税等	33,642	37,235	27,738
その他	61,843	82,355	74,495
流動負債合計	177,545	215,010	173,378
固定負債：			
長期借入金	11,404	22,388	9,129
その他	17,980	28,640	17,702
固定負債合計	29,386	51,029	26,831
負債合計	206,931	266,040	200,210
純資産の部			
資本金	10,273	10,273	10,273
資本剰余金	5,444	5,824	5,541
利益剰余金	418,630	471,302	419,093
自己株式	△ 16,043	△ 15,899	△ 16,003
その他の包括利益累計額	△ 24,749	49,847	△ 32,160
新株予約権	864	1,311	755
少数株主持分	6,670	17,779	7,392
純資産合計	401,090	540,439	394,892
負債純資産合計	608,021	806,479	595,102
【連結財務諸表のポイント】			
① 現金・預金及び有価証券の合計額が前年同期末比で437億円増加 各事業の営業キャッシュ・フローが増加したことによります。			
② たな卸資産は前年同期末比218億円増加 海外ユニクロ事業で、前年同期末比125店舗増加したことにより、同109億円増加したと、ジーユー事業、セオリー事業の事業が拡大したこと、J Brand事業を連結したことにより、同86億円増加したことが要因です。			
③ 流動資産その他で696億円増加 国内ユニクロ事業が保有する為替予約の平均レートより、期末レートが円安になったことから、流動負債のその他に含まれる為替予約約定147億円(2012年2月末)が、流動資産のその他809億円(2013年2月末)へ振り替わったことが要因です。この結果、純資産のその他の包括利益累計額の745億円の増加にもつながっております。			
④ 固定資産は、前年同期末比で547億円増加 海外ユニクロ事業で店舗数が前年同期末比で125店舗増加したため、有形固定資産が155億円増加しております。また、J Brandを連結したことにより、無形固定資産が387億円増加しております。			

四半期連結損益計算書			
単位：百万円			
	前第2四半期 累計期間 自2011年9月1日 至2012年2月29日	当第2四半期 累計期間 自2012年9月1日 至2013年2月28日	前連結会計 年度 自2011年9月1日 至2012年8月31日
売上高	525,502	614,841	928,669
売上原価	257,016	310,876	453,202
売上総利益	268,486	303,965	475,466
販売費及び一般管理費	176,733	207,306	349,016
営業利益	91,752	96,658	126,450
営業外収益	2,746	11,754	2,121
営業外費用	953	652	3,359
経常利益	93,546	107,760	125,212
特別利益	238	66	327
特別損失	1,175	1,246	2,149
税金等調整前四半期(当期)純利益	92,609	106,580	123,390
法人税、住民税及び事業税	31,741	36,851	45,879
法人税等調整額	1,118	1,975	3,084
少数株主損益調整前四半期(当期)純利益	59,749	67,753	74,426
少数株主利益	1,952	2,303	2,771
中間(当期)純利益	57,796	65,449	71,654
⑤ 売上高は6,148億円と、前年同期比17.0%の増収 増収の内訳は、海外ユニクロ事業が458億円の増収、国内ユニクロ事業が226億円の増収、グローバルブランド事業が208億円の増収となっております。			
⑥ 売上高総利益率は49.4%と、前年同期比1.7ポイント低下 国内ユニクロ事業で、集客を目的とした「期間限定値引販売」の実施日数、品番が拡大したことで、売上高総利益率が1.5ポイント低下したことが要因です。			
⑦ 売上高販管費比率は33.7%と、前年同期比0.1ポイント増加 国内ユニクロ事業の売上高販管費比率が0.5ポイント増加したことが要因です。			
⑧ 営業外収支は前年同期比93億円の改善 前期末より円安が進んだことにより、保有している外貨建て資産などが円換算で膨らみ、為替差益が111億円発生したことが要因です。			

四半期連結キャッシュ・フロー計算書			
単位：百万円			
	前第2四半期 累計期間 自2011年9月1日 至2012年2月29日	当第2四半期 累計期間 自2012年9月1日 至2013年2月28日	前連結会計 年度 自2011年9月1日 至2012年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	123,736	112,089	127,643
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 20,573	△ 41,741	△ 35,313
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 10,065	△ 8,103	△ 29,056
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,657	13,885	68
現金及び現金同等物の増減額	95,754	76,129	63,341
現金及び現金同等物の期首残高	202,104	266,020	202,104
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	574	1	574
現金及び現金同等物の期末残高	298,433	342,151	266,020
⑨ 当期末の現金及び現金同等物の残高は、前年同期比437億円増の3,421億円 各事業の利益貢献により、営業活動による収入は1,120億円、投資活動による支出は、J Brand買収に伴う支出267億円を含む417億円。財務活動による支出は、J Brand買収に伴う借入れ148億円を含む81億円となっております。			

■ 会社概要

商号	株式会社ファーストリテイリング FAST RETAILING CO., LTD.
本社事務所	山口県山口市佐山717番地1
東京本部	東京都港区赤坂9丁目7番1号 ミッドタウン・タワー
設立	1963年5月1日
資本金	102億7,395万円
事業の内容	株式又は持分の所有によるグループ全体の事業活動の支配・管理等
連結従業員数	19,614名

■ 取締役・監査役 (2013年4月1日現在)

代表取締役会長兼社長	柳井 正	常勤監査役	田中 明
取締役(社外)	半林 亨		新庄 正明
	服部 暢達	監査役(社外)	安本 隆晴
	村山 徹		渡邊 顯
	新宅 正明		金子 圭子
	名和 高司		

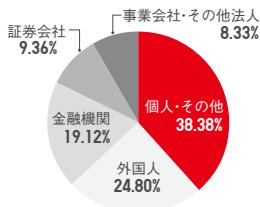
■ 株式の状況

会社が発行する株式の総数	300,000,000株
発行済株式の総数(自己名義株式を含む)	106,073,656株
株主数(自己名義株式を含む)	6,853名

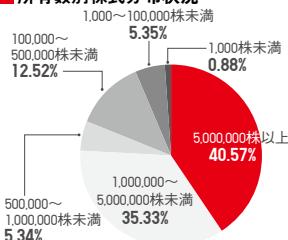
■ 大株主

	持株数(株)	持株比率(%)
柳井 正	22,987,284	21.67
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,051,400	8.53
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,682,700	5.36
ティティワイマネジメントビーヴイ	5,310,000	5.01
柳井 一海	4,781,808	4.51
柳井 康治	4,780,600	4.51
有限会社Fight&Step	4,750,000	4.48
株式会社ファーストリテイリング(自己株式)	4,191,166	3.95
有限会社MASTERMIND	3,610,000	3.40
柳井 照代	2,327,848	2.19

■ 所有者別株式分布状況



■ 所有数別株式分布状況



■ 株主メモ

事業年度	9月1日～翌年8月31日
定時株主総会	毎年11月下旬
同総会議決権行使株主確定日	毎年8月末日
期末配当金受領株主確定日	毎年8月末日
中間配当金受領株主確定日	毎年2月末日
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部(証券コード 9983)
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社

電話お問い合わせ
郵便物送付先
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号
TEL: 0120-232-711(通話料無料)

公告方法
電子公告により、当社ホームページ (<http://www.fastretailing.com/jp/ir/>) に掲載いたします。なお、事故その他のやむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

また、当社の貸借対照表及び損益計算書は当社ホームページの上記アドレスに掲載しております。

単元株式数 100株

- ご注意
- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
 - 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店にお問い合わせください。

ユニクロ お客様窓口 0120-090-296 9:00~17:00(年中無休)

IRホームページ紹介



<http://www.fastretailing.com/jp/ir/>



FAST RETAILING

www.fastretailing.com

「服を変え、常識を変え、世界を変えていく」